

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4190100034
法人名	有限会社 エクセルサポート
事業所名	グループホーム さつき苑高木瀬
所在地	〒849-0917 佐賀県佐賀市高木瀬町大字長瀬299-1 (電話) 0952-30-3925

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年7月30日	評価確定日	平成 20年8月22日

## 【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年7月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	2 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900円

### (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81.88 歳	最低	75 歳	最高	89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐賀記念病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

さつき苑高木瀬は開設1年目のホームで、田園風景が広がる道路近くの、アクセスの良い立地にある。建物はゆとりを持たせたバリアフリーの設計で、周囲が見渡せ四季の変化を楽しむことができる。苑内には、広いウッドデッキや家庭菜園があり、あたたかで明るい雰囲気に包まれている。「全ては入居者の為に」「全てに知恵と工夫を」という理念を掲げ、入居者と職員がお互いに声をかけ合い、支え合いながら日常生活をされている様子が伺える。系列のグループホームとの連携によって人的な支援も得られ、地域にしっかり根付くことを目指してサービスの向上に努められている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	評価は今回が初めてである。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	評価は今回が初めてだが、課題をしっかりとめられ、活用に努められている。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議の内容を議事録としてまとめ、職員で共有するとともに、家族への送付をされている。会議には地域包括支援センターからの参加があるが、他の市町関係者と行き来する機会がまだつくられていない。サービスの向上に役立てるためにも、他の担当者との関係づくりが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	家族には毎月、写真等も同封して、暮らしぶりや健康状態を知らせている。面会時にも状況報告をして、要望等を聞いている。入浴の希望を調整したり、玄関のスロープの改善もすぐに対応されている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	運営推進会議メンバーやボランティアとの情報交換を密に行い、地域の清掃活動や公民館での活動に積極的に参加されている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「全ては入居者の為に」「全てに知恵と工夫を」という理念を掲げ、また、「地域に根付いたサービスの提供」を目標とされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝・夕の申し送り時に唱和して、自己確認するとともに、入居者の希望に対して、常に知恵と工夫で応えることを努力されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議メンバーやボランティアとの情報交換を密に行い、地域の清掃活動や公民館での活動に積極的に参加されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は初めてであるが、意義を理解し、課題をしっかりとめられ、活用に努められている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、日程は参加者の要望を聞いて決められている。話し合いの内容をまとめ、職員で共有するとともに、家族へのたよりに添えて送付をされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターからの参加があるが、他の市町関係者と行き来する機会がとられていない。	○	サービスの向上に役立てるためにも、市町に出向いての相談や、運営推進会議以外にも必要に応じて訪問を依頼したり、また、勉強会等への参加の機会を通じて、他の担当者と交流していくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族宛での利用料請求時に、入居者の状況報告を加え、写真等も同封して、暮らしぶりや健康状態を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に状況報告をして、要望等を聞いている。入浴の希望を調整したり、玄関のスロープの改善もすぐに対応されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を最小限に抑えるように心掛けていて、離職時も、系列のグループホームとの関係を活かして、ダメージを防ぐ努力をされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育に力を入れ、日常業務の気になることは、その場で提起するようにして、全体で共有を図り、スキルアップに反映させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力医療機関の研修の中で、同業者との交流は事業主レベルで行われているが、職員レベルでの取り組みはされていない状況である。	○	職員まで含めた、他同業者との情報交換や交流の場をつくる取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居検討時には、最低3回は面談に行き、顔見知りの関係をつくり、入居の体験もしてもらい、馴染んでからのサービス開始をされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜収穫、洗濯物干しや畳み、食事の後片付け等を職員と一緒にいき、入居者同士でも世話をし合い、支え合う関係がつけられている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の調査で、家族や紹介者から聞いて生活歴の把握をし、日常でも本人から聞くことをしながら、サービスのプランにつなげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回、全員参加のカンファレンスを行い、職員が継続的に記録した評価をもとに、介護計画作成が行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行うと共に、入退院時や状態の変化に応じて、介護計画の見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診への同行や、買い物等の外出支援、法要の希望に対応する等、柔軟な支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんど入居前の医療機関を継続利用し、2週に一度の受診が支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化した場合の対応を、家族と十分に話し合っている。終末期においても、同意書の用意をしており、全職員が把握できるようになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや対応の際の留意点等について、スタッフで話し合いをし、誇りやプライバシーを損ねないような支援がされている。入居者の基本情報などの個人情報は、施錠できる棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝早く起きた入居者が、食事の準備を手伝ってくれたりし、起床・就寝・食事時間等、個人の意向やペースを大切にしながら支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを手伝ってもらったり、味付けの希望を聞いたりして、ゆっくり楽しみながら食事の時間を持たれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回以上の入浴をしてもらい、希望に応じて夏場のシャワー浴等にも対応されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ、体操、ぬり絵、折り紙等の活動をしたり、家事の役割を分担してもらったり、外出の希望にもできる限り対応されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見やイベント見物等の年間行事の他、個別の買い物等への外出支援もされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛けることの弊害を理解しており、玄関にはセンサーを設置し、施錠をしない対応がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者も参加する、内部での避難訓練は実施しているが、消防署や地域の協力を得ての訓練は実施されていない。	○	運営推進会議等を通じて協力要請をし、消防・警察・地域住民の協力が得られるような訓練の取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録をし、栄養バランスについては、栄養士の確認・指導を受けている。水分量についても1日一定量を決めて、摂取してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングからは、田んぼや周囲の風景が見渡せ、季節感を感じることができる。トイレには男性用の便器をつけたり、西日対策にすだれを使用したり、工夫をされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には、以前から使用していた箆笥等が持ち込まれ、思い思いに部屋の環境が整えられている。		